

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 25 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	学校図書館支援事業				
担当課係名	学習資料館	課	業務・管理	係	作成者 星野悟之
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化の街			総合計画のページ
	基本計画	生涯学習の推進と社会教育施設の整備			
	主要施策	学習資料館の充実			96
予算費目	一般	会計	10 款	教育費	5 項 社会教育
事業期間	平成 24 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	仙北市総合情報センター条例				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営 (一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託 (全部) <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民 (児童生徒) ・図書資料
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	公立図書館が、学校図書館の設置目的である「子どもが読書する」、「学校に役立つ」、「教職員が利用する」などの、図書館づくりによる学校図書館の環境整備とともにサポートを行う。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	学校図書館支援員 2 名が市内小中学校を定期的に訪問し、図書等のデータ入力、装備、修理、配架や展示コーナー設置、図書の発注などの図書室内の環境整備に係る作業と図書担当教諭やボランティアへのサポートを行う。

【事務事業の推移】

	項 目		単位	24年度実績	25年度実績	
	効果	活動指標	利用者数	目標	人	23,712
実績				人	16,518	20,455
達成度				%	69.7%	87.5%
成果指標		貸出冊数	目標	冊	27,664	27,258
			実績	冊	21,469	24,519
			達成度	%	77.6%	90.0%
投下コスト	項 目		総事業費	24年度決算額(千円)	25年度決算額(千円)	
	事業費 (人件費を除く) (A)		—	995	1,402	
	人 件 費 (B)		—	13,397	11,186	
	職 員 数		—	1.58	1.35	
	職員平均人件費		—	8,479	8,286	
	(A) + (B) 投下コスト		—	14,392	12,588	
	財源内訳	国庫支出金		—	—	—
		県支出金		—	—	—
		地方債		—	—	—
		その他		—	—	—
一般財源		—	14,392	12,588		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	871	615	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	484	428	

【事務事業の今までの成果】

図書館支援員2名が市内小中学校を月に2～3回定期的に訪問し色々な作業をすることにより、図書室内の環境は改善され、図書室を利用する児童・生徒も増え、図書委員会等の活動も活発になってきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	平成26年6月に学校図書館法改正案が参議院本会議において可決され、「学校司書の法制化」がようやく実現された。しかし、学校司書がいる学校はまだまだ少なく、完全に配置されるまでには時間がかかりそうだ。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	各小中学校における学校図書館支援員の活動は非常に効果を上げており、学校関係者・児童生徒からも厚い信頼を得ている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	学校図書館の環境整備の充実、学校図書館管理システム・横断検索システムの有効活用、学校サイドからの信頼等を踏まえ、市内全小中学校の図書館活動は確実に活性化しつつあることからこの判定とした。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	学校図書館は、日常的に児童生徒が活用し、学力向上に役立つものでなければならないし、読書意欲を喚起し、落ち着いた読書できる空間でなければならない。図書館支援員は、学習に役立つよう検索できるためのデータ入力や意欲を喚起する環境整備に大きく貢献している。今後も継続が見込まれる。

